

総合資格

2級建築士学科試験の総評

高学歴合格者が増加傾向

1級試験制度の変更が影響

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、8月23日に行われた2011年度2級建築士学科試験の合格発表を受け総評を発表した。

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、8月23日に行われた2011年度2級建築士学科試験の合格発表を受け総評を発表した。

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、8月23日に行われた2011年度2級建築士学科試験の合格発表を受け総評を発表した。

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、8月23日に行われた2011年度2級建築士学科試験の合格発表を受け総評を発表した。

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、8月23日に行われた2011年度2級建築士学科試験の合格発表を受け総評を発表した。

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、8月23日に行われた2011年度2級建築士学科試験の合格発表を受け総評を発表した。

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、8月23日に行われた2011年度2級建築士学科試験の合格発表を受け総評を発表した。

総合資格（新宿区、岸隆司社長）は、8月23日に行われた2011年度2級建築士学科試験の合格発表を受け総評を発表した。

増加傾向が続いている。年齢別でも「24歳以下」の合格者構成比率も近年上昇し続け、本年度は遂に4割を超え、41・1%まで上昇。これは08年の建築士法改正に伴う1級建築士の受験資格要件の厳格化などで、大学院卒業後すぐに1級建築士を受験できる対象者が減少、1級建築士の受験資格を得られる期間を有効に活用し、確実に2級建築士を取得し、実力と経験を積んでから1級建築士にチャレンジする高学歴層が増加していると推察。

さらに、近年の「業界における若手技術者の不足」で、企業側の社員に対する早期資格取得の要請が強まり、新卒をはじめとした若手社員が積極的に資格取得に動いたことも「24歳以下」の合格者構成比率が増加した要因と分析。

そのほか、合格者属性の特徴的な内容として、本年度から合格者属性の職域別、職務内容別で、「学生・研究生」の区分が新たに設けられたことが挙げられる。「学生・研究生」区分の構成比率が新区分として、追加されるレベルに上昇したと推測。その要因として、昨今の卒業就職事情の影響も考えられ、過去最低の就職内定率91%（本年4月1日現在）を記録し、大学生（11年3月卒）就職活動を進められるよう、2級建築士の受験資格がある大学院生などが、在学中に資格取得をしようとする「学生の資格取得意識」の高まりも要因の一つとしていえる。

このような理由から、来年度以降も若い年代の合格者の増加傾向は続くものとみている。